



アナンシエータの設定

- [アナンシエータの概要 \(1 ページ\)](#)
- [アナンシエータの設定タスク フロー \(4 ページ\)](#)

アナンシエータの概要

アナンシエータは、Cisco Unified Communications Manager で動作し、録音されたメッセージやトーンを Cisco IP Phone およびゲートウェイに送信することが可能な、SCCP ソフトウェアデバイスです。そのノード上で Cisco IP Voice Media Streaming service をオンにすると、アナンシエータがクラスタノード上でアクティブ化されます。MLPP、SIP トランク、IOS ゲートウェイ、ソフトウェア会議ブリッジなどの機能は、定義済みのメッセージを一方のメディアストリーム経由で電話機またはゲートウェイに送信するように、アナンシエータに依存しています。さらに、

- IPv4 と IPv6 の両方がサポートされています。アナンシエータは、システムのプラットフォームが IPv6 に対して設定されており、IPv6 エンタープライズパラメータが有効化されている場合、自動的にデュアルモードに設定されます。
- SRTP がサポートされています

アナンシエータのスケラビリティ

デフォルトでは、アナンシエータは 48 のメディアストリームを同時にサポートしています。追加ノードでアナンシエータをアクティブにするか、[コール数 (Call Count)] サービスパラメータを使用してアナンシエータのメディアストリームのデフォルト数を変更することで、キャパシティを増やすことができます。ただし、当該のノードで **Cisco CallManager** サービスが非アクティブ化されていない限り、ノードでこの値を増やすことは推奨しません。

Cisco CallManager サービスが実行されていない専用のサブスクリバノードでアナンシエータを実行する場合、アナンシエータは最大 255 の同時アナウンスストリームをサポートできません。専用のサブスクリバノードが 1 万ユーザの OVA バーチャルマシン設定に適合する場合、警報装置は最大 400 の同時アナウンスストリームをサポートできます。



注意 コール処理の負荷が高い Unified Communications Manager ノードではアナウンサーをアクティブにしないでください。

会議ブリッジを使用したアナウンサー

このアナウンサーは、次の条件の下で会議ブリッジに使用できます。

- アナウンサーを含むメディア リソース グループ リストが、会議ブリッジが存在するデバイス プールに割り当てられている場合。
- アナウンサーがデフォルトのメディア リソースとして設定されている場合。

メディア リソース グループ リストが会議を制御するデバイスに直接割り当てられている場合は、会議ブリッジでアナウンサーを使用できません。

会議ごとにアナウンスを1つだけサポートします。現在のアナウンスの再生中に、システムが別のアナウンスを要求した場合は、新しいアナウンスによって再生中のアナウンスがプリエンプション処理されます。

デフォルトの警報装置アナウンスとトーン

Cisco Unified Communications Manager では Cisco IP Media Streaming Application サービスが有効になると、録音されたアナウンサーアナウンスを自動的に提供します。アナウンスまたはトーンは、次の条件で再生されます。

- アナウンス：Cisco Multilevel Precedence and Preemption 用に設定されたデバイス向けに再生されます
- 割り込み音：参加者がアドホック会議に参加する前に聞こえます
- リングバックトーン:IOSゲートウェイを介してPSTN経由でコールを転送する場合、コールがアクティブになっていてもゲートウェイが音を再生できないため、アナウンサーがトーンを再生します。
- リングバックトーン：H.323 クラスタ間トランクを介してコールを転送するときに、トーンを再生します。
- リングバックトーン：SCCP を実行している電話機から SIP クライアントにコールを転送するとき、トーンを再生します。

デフォルトの録音されたアナウンサーアナウンスを変更したり、アナウンスを追加することはできません。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer がインストール済みで Cisco Unified IP Phone またはデバイス プールのロケール値を設定した場合には、アナウンスのローカリゼーションがサポートされます。ロケールインストーラとユーザおよび（対応する）ネットワーク ロケール用にインストールするファイルの詳細については、『*Installing Cisco Unified Communications Manager (Cisco Unified Communications Manager のインストール)*』を参照し

てください。ロケールインストーラをダウンロードするには、www.cisco.com のサポートページを参照してください。

表 1: 録音済みのアナンシエータアナウンス

条件	アナウンス
同等またはそれ以上の優先コールが進行中です。	緊急度の高い電話が使用中のため、電話をおつなぎできません。一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。
優先順位のアクセス制限が存在します。	緊急度の高い電話が使用中のため、電話をおつなぎできません。一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。
許可されない優先順位の使用を試みた人物がいます。	ご使用になった優先度は、回線で認証されていません。認証された優先度をお使いになるか、交換手までお問い合わせください。これは録音メッセージです。
コールがビジー状態です。または管理者がコール待機用または優先処理用の電話番号を設定していません。	おかけになった番号は、大変込み合っており、この番号には割り込み機能が備わっておりません。一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。
システムがコールを確立できません。	おかけになった電話番号では、正しくおつなぎできません。番号を確認してからもう一度おかけ直しいただくか、交換手までお問い合わせください。これは録音メッセージです。
サービスが中断されました。	サービス障害のため、電話をおつなぎできません。緊急の場合は、交換手までお電話ください。これは録音メッセージです。

次の表に、警報機でサポートされているトーンを示します。

表 2: トーンの説明

タイプ	説明
話中音	ダイヤルされた番号が使用中の場合は、ビジートーンが聞こえます。
割り込みトーン	参加者がアドホック会議に参加する前に会議割り込みトーンが聞こえます。
リングバックトーン	次のシナリオでは、アラートトーンが聞こえます。 <ul style="list-style-type: none"> • IOS ゲートウェイを使用して PSTN 経由でコールを転送するとき • H.323 クラスタ間トランクを介してコールを転送するとき • SCCP 電話機から SIP クライアントにコールを転送する場合。

会議ブリッジでのアナンシエータの使用

このアナンシエータは、次の条件の下で会議ブリッジに使用できます。

- アナンシエータを含むメディア リソース グループ リストが、会議ブリッジが存在するデバイス プールに割り当てられている場合。
- アナンシエータがデフォルトのメディア リソースとして設定されている場合。

メディア リソース グループ リストが会議を制御するデバイスに直接割り当てられている場合は、会議ブリッジでアナンシエータを使用できません。

会議ごとにアナウンスを1つだけサポートします。現在のアナウンスの再生中に、システムが別のアナウンスを要求した場合は、新しいアナウンスによって再生中のアナウンスがプリエンプション処理されます。

関連トピック

[メディア リソース グループの概要](#)

アナンシエータの設定タスク フロー

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	アナンシエータの有効化 (5 ページ)	ノードで Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスをアクティブにして、そのノードのアナンシエータをアクティブにします。クラスタ内で有効にする Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスは1つだけに限定します。
ステップ 2	必須: メディア リソース グループのタスク フロー	メディアリソースグループとリストにアナンシエータを追加して、Cisco Unified Communications Manager 管理を使用してメディアリソースを管理します。[依存関係レコード要約(Dependency Records Summary)] ウィンドウに、アナンシエータを使用するメディアリソースグループが表示されます。
ステップ 3	デバイス プールの設定	Cisco Unified Communications Manager 管理を使用して、デバイスプールにアナンシエータを含むメディアリソースグループを追加します。各アナンシエータに対してこの手順を繰り返します。各アナン

	コマンドまたはアクション	目的
		シエータはデバイス プールに所属する必要があります。
ステップ 4	(任意) メディアストリームのデフォルト数を変更する (6 ページ)	アナンシエータ用のデフォルトのメディアストリーム数を変更できます。
ステップ 5	(任意) アナンシエータのセキュリティモードの上書き (6 ページ)	Cisco Unified Communications Manager がセキュアに展開されている場合、アナンシエータとセキュリティが有効なデバイスとの間のメディア ストリーミングは Secure Real-Time Protocol (SRTP) で自動的に暗号化されます。アナンシエータのセキュリティ設定を上書きし、セキュアなアナンシエータから配信されたストリーム メディアが暗号化されないようにすることができます。
ステップ 6	(任意) アナンシエータがあるメディア リソース グループ リストを表示 (7 ページ)	どのメディア リソース グループがアナンシエータ デバイスを使用するかを確認できます。
ステップ 7	(任意) 会議ブリッジに対するアナンシエータの設定 (8 ページ)	アナンシエータと会議ブリッジが同じデバイス プールに属している時は、会議ブリッジでアナンシエータを使用できます。

アナンシエータの有効化

クラスタ内で有効にする Cisco IP Voice Media Streaming Application サービスは 1 つだけに限定します。



注意

コール処理負荷が高い Cisco Unified Communications Manage ノードでは、アナンシエータをアクティブにしないことをお勧めします。

手順

- ステップ 1 Serviceability GUI から、[ツール (Tools)] > [アクティブ化 (Activation)] を選択します。[サービスアクティベーション (Service Activation)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] フィールドのノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 3 **Cisco IP Voice Media Streaming Application** にチェックを入れ、[保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

メディアリソースグループを設定していない場合は、それをデバイスプールに割り当てます [メディアリソースの設定タスクフロー](#)。

それ以外の場合は、[メディアストリームのデフォルト数を変更する \(6 ページ\)](#)。

メディアストリームのデフォルト数を変更する

デフォルトでは、アナンシエータは 48 のメディアストリームを同時にサポートしています。アナンシエータのサービスパラメータを使用して、デフォルトのメディアストリームの数を変更できます。ただし、1つのノードでは、48 の警報ストリームを超えることは推奨されていません。

始める前に

[アナンシエータの有効化 \(5 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サービスパラメータの設定] ウィンドウで、サーバを選択してから、Cisco IP Voice Media Streaming App と呼ばれるサービスを選択します。
- ステップ 3** [サービスパラメータの設定] ウィンドウで、[アナンシエータパラメータ] セクションの [コールカウント (Call Count)] フィールドに同時メディアストリームの数を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

アナンシエータを更新するときに、アクティブアナウンスが再生されていない場合は、アナンシエータがアイドル状態になったときに自動的に変更されます。

次のタスク

[アナンシエータのセキュリティモードの上書き \(6 ページ\)](#)

アナンシエータのセキュリティモードの上書き

[クラスタセキュリティモード (Cluster Security Mode)] と呼ばれるエンタープライズパラメータが 1 (混合モード) に設定されると、アナになります。アナンシエータは、Secure Real-Time Protocol (SRTP) を有効にした Cisco Unified Communications Manager で、セキュアな SRTP デバイスとして登録されます。ロックされたアイコンは、SRTP 対応デバイスに表示されます。セキュアなアナンシエータからのアナウンスは、受信側デバイスも SRTP 対応であれば暗号化されます。SRTP 対応ではない場合は、保護されていないアナウンスとトーンが送信されます。

[Make Annunciator Non-secure when Cluster Security is Mixed (クラスタのセキュリティが混在している場合はアナンシエータを非セキュアに設定)] というサービス パラメータを使用して、アナンシエータのセキュリティモードをオーバーライドできます。アナンシエータのセキュリティモードが上書きされると、受信側デバイスで SRTP が有効でも暗号化されていないアナウンスが再生されます。

始める前に

[メディアストリームのデフォルト数を変更する \(6 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** 必須: Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] フィールドでノードを選択します。
- ステップ 3** [サービス (Service)] フィールドで [Cisco Unified IP ボイス メディア ストリーミング アプリケーション (Cisco Unified IP Voice Media Streaming Application)] を選択します。
- ステップ 4** [クラスタのセキュリティが混在している場合はアナンシエータを非セキュアに設定 (Make Annunciator Non-secure when Cluster Security is Mixed)] を **True** に設定して、[保存 (Save)] をクリックします。

ヒント [クラスタのセキュリティが混在している場合はアナンシエータを非セキュアに設定 (Make Annunciator Non-secure when Cluster Security is Mixed)] パラメータが表示されていないときは、[詳細機能 (Advanced)] をクリックします。

次のタスク

[アナンシエータがあるメディア リソース グループ リストを表示 \(7 ページ\)](#)

アナンシエータがあるメディア リソース グループ リストを表示

どのメディア リソース グループがアナンシエータ デバイスを使用するかを確認するには、[依存レコード サマリー (Dependency Records Summary)] ウィンドウを表示します。

始める前に

[アナンシエータのセキュリティモードの上書き \(6 ページ\)](#)

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で [メディア リソース (Media Resources)] > [アナンシエータ (Annunciator)] を選択します。

ステップ2 システム用に設定されているアナンシエータを選択します。

ステップ3 [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスで、[依存レコード (Dependency Records)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

[依存レコードサマリー (Dependency Records Summary)] ウィンドウは、アナンシエータ デバイスを使用するメディア リソース グループを表示します。

次のタスク

[会議ブリッジに対するアナンシエータの設定 \(8 ページ\)](#)

会議ブリッジに対するアナンシエータの設定

このアナンシエータを会議ブリッジに使用することができます。

始める前に

[アナンシエータがあるメディア リソース グループ リストを表示 \(7 ページ\)](#)

手順

ステップ1 メディアリソースグループのリストにアナンシエータを追加します。

ステップ2 そのアナンシエータを含むメディアリソースグループリストを会議ブリッジのデバイスプールに割り当てて、そのアナンシエータをクラスタ内のすべてのデバイスで利用可能にします。

関連トピック

[メディア リソース グループの概要](#)

[メディア リソース グループのタスク フロー](#)

[デバイス プール](#)

[基本的なデバイス プールの設定](#)